



## 【韓国】 総合指数は 2.1%安と 11 週ぶりに反落、今週は高値警戒感で上値重い

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 2.1%安と 11 週ぶりに反落。世界的な金融緩和を背景に相場の先高観は根強く、週明け 11 日には一時、心理的節目の 3200 ポイントに乗せる場面もみられた。個人投資家を中心とした旺盛な買い意欲が相場を支える一方、8 日まで連日で史上最高値を更新しただけに、外国人投資家や機関投資家から利益確定の売りが出て相場の重しとなった。米国で引き続き緩和的な金融政策が続くとの見方から 13-14 日は上昇。15 日には韓国銀行（中央銀行）が政策金利を過去最低の 0.50% に据え置くとして発表した。市場予想通りだったが、週末を前に持ち高調整の動きも強まり、15 日は反落した。高値警戒感が強まっており、今週も利益確定の売りが相場の重しとなりそうだ。20 日に生産者物価指数（PPI）が発表される予定。

### ▼指数チャート



## 【ロシア】 RTS 指数は 0.5%高と 3 週続伸、今週は欧米株価をにらんだ展開か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 0.5%高と 3 週続伸。原油高とルーブル高を背景に 14 日まで 8 日続伸した。指数は前週に 5.7%高と大幅に続伸したことで、週明け 11 日は利益確定売りが上値を抑え、ほぼ横ばいとなったが、12 日は 56 ドル台に乗せたブレント原油価格や対米ドルでのルーブル高を背景に指数は 1.3%高。13 日は 0.1%高と小幅高にとどまったものの、14 日は欧米株高やドル安・ルーブル高を受けて 0.9%高と 8 日続伸。終値で昨年 2 月 21 日以来となる 1500 ドル台を回復した。15 日は海外市場で利益確定売りが強まり、RTS 指数も 1.8%安と大幅に反落して週の取引を終えた。個別では、エネルギーのロスネフチが 7.1%高、ルクオイルが 6.0%高となり、指数を押し上げた。今週は欧米株価や原油相場をにらんだ展開か。

### ▼指数チャート



## 【ベトナム】 ベトナム指数は 2.3%高と 11 週続伸、今週は過去最高値をうかがう展開か

### 開か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 2.3%高と 11 週続伸。経済成長に対する期待を背景に不動産や景気敏感株への資金流入が続いた。前週に 5.8%高と大幅に 10 週続伸した指数は週明け 11 日に前営業日比 1.5%高。中国からの製造拠点移転の観測を受け、不動産、空運、電力などのセクターが相場をけん引した。13 日は高値警戒感から 0.5%安と 9 営業日ぶりに反落したが、14-15 日も続伸。指数は 13 日に一時 1200.82 ポイントと 2018 年 4 月 10 日以来の水準を回復した。個別では不動産のキンバック・シティ・グループとゴム製品のベトナム・ラバーが 2 桁高。金融のサコムバンクが 8.8%、サイゴン証券が 8.2%、空運のベトナム航空が 5.7%、鉄鋼のホア・ファット・グループが 4.1% 上昇した。今週は最高値 1211 ポイントをうかがう展開か。

### ▼指数チャート





## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.8%高、今週は 21 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催**

ジャカルタ総合指数は週間で 1.8%高と続伸。週半ばまでの上昇が奏功した。週初の 11 日は、米国の追加経済対策への期待感から買われ、指数は前営業日比 2.0%高と 3 営業日続伸。12 日は 20 年 11 月の小売売上高が前年同月比 16.3%減と前月に続き 2 桁減となったものの影響は軽微で小幅に上昇した。好地合いの中、13 日には終値で 6400 ポイント台に乗せ、約 1 年半ぶりの高値を更新したが、14 日に 6 営業日ぶりに反落すると、15 日はバイデン次期米大統領が提案した経済対策案の実現性に対する懐疑的な見方が広がった影響で続落している。今週は 21 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

### ▼指数チャート



## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.4%高、週後半に終値で 3000 ポイントに到達**

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.4%高と 3 週続伸。小幅なレンジでの値動きが続く中、週後半に終値で 3000 ポイントに到達した。週初の 11 日は利益確定売りで 6 営業日ぶりに反落。12 日も売り優勢の展開となったが、13 日に小幅反発すると、14 日は米国の追加経済対策に対する期待感に加え、中国の 20 年 12 月の輸出入額が市場予想から上振れしたことも好感され、指数は続伸した。15 日には終値で約 10 カ月ぶりの高値を更新している。今週は 18 日発表の 12 月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点。外部要因では中国の 10-12 月期の GDP、12 月の鉱工業生産と小売売上高が意識されそうだ。

### ▼指数チャート



## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.1%安、今週は 20 年 12 月の貿易統計に期待**

SET 指数は週間で 1.1%安と反落。国内の経済イベントが少ない中、週後半の下落が響いた。週半ばまでは前週の勢いを引き継ぎ、じりじりと上値を広げ、13 日には終値ベースで約 1 年半ぶりの高値を更新。ただ、14 日に 6 営業日ぶりに反落すると、15 日は米国で発表された追加経済対策の内容を見極める動きが出たことに加え、中国本土での新型コロナウイルス感染者の増加が嫌気され、指数は前日比 1.1%安と続落して取引を終えた。今週は 22 日に 20 年 12 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。外部要因では 18 日発表の中国の 10-12 月期の GDP や 20 日の米大統領就任式などが指数を左右しそうだ。

### ▼指数チャート



## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.4%安、アブドラ国王が非常事態宣言を発令**

クアラルンプール総合指数は週間で 0.4%安と反落。総じて軟調な値動きだった。週初の 11 日は、新型コロナウイルスの感染者増加に伴う行動制限強化への懸念が広がった上、20 年 11 月の鉱工業生産が前年同月比 2.2%減と市場予想から下振れたことも嫌気され、指数は 3 営業日ぶりに反落。12 日はアブドラ国王が非常事態宣言を発令した影響で続落したが、13 日は反動で金融株を中心に買い戻され、前日比 1.5%高と反発した。ただ、週後半は買い材料に乏しく、15 日まで続落して取引を終えている。今週は 20 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、22 日には 12 月の CPI が発表される予定。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。